協力隊がゆく

11月1日時点 隊員数7名

問協働定住課　☎21-0282

漫画家・平松伸二（ひらまつしんじ）×芳烈酒造（ほうれつしゅぞう）　オリジナル日本酒



青山（あおやま） 美里（みさと） 隊員

「高梁の魅力をもっと多くの人に届けたい」という思いから、高梁市松原町出身の漫画家・平松伸二さんの作品をモチーフにした、オリジナルラベルの日本酒をプロデュースしました。平松さんの作品と、有漢町で造られた日本酒の魅力を融合させた、ここでしか味わえないオリジナル商品です。

ラベルには、それぞれ平松さんの迫力あるイラストや直筆の書が描かれており、お酒の種類も大吟醸、純米吟醸など全４種類を制作。見ても、飲んでも楽しめる一本となっています。

高梁ならではの特別なお酒を、ぜひお楽しみください！



預かる命を、守り抜く備え



小野（おの） 智行（ともゆき） 隊員

市内には、高齢の人や子どもたちが日中を過ごす福祉施設や医療機関、教育施設などがたくさんあります。災害のとき、そこにいる人の多くは自分だけで逃げることが難しい人です。

だからこそ施設の皆さんには、「預かった命は自分たちが守る」という目線で備えてほしいと思います。しかしながら、日々の業務の中で、施設だけで備えを進めるのは簡単ではありません。

私は市内の介護施設や学童保育などに伺い、職員の皆さんと訓練や備えの見直しを進めています。「何から始めればいいか分からない」という施設の人は、お気軽にご相談ください。施設だけで抱えず、一緒に備えていきましょう。

地域おこし協力隊だより

高梁市地域おこし協力隊は、隊員自らが活動内容をまとめた「地域おこし協力隊だより」を定期的に発行しています。普段、協力隊員がどのような活動をしているのか確認できますので、ぜひご覧ください！

はしれ！よしお

市長コラム　文／石田 芳生

広報紙の本文でも紹介していますが、10月18日（日）、第9回全国手話劇祭が高梁市で開催されました。市の施策として、また全国手話言語市区長会の一員として、手話の普及啓発や共生社会の実現に取り組まなければならないのはもちろんですが、市民の一人として、主催者としての挨拶などを手話通訳者に頼ることなく、何とか自分でやりきることを一つの目標にしています。これまでも、手話に精通した職員の手話動画を繰り返しまねながら、公式行事やクリスマス会などのイベントに臨んできました。慣例的な表現は身につく一方で、指文字や数字、日常生活でよく使う単語の習得が不十分であること、また、動画の丸暗記だけでは相手の手話を読み取れないことも明らかになってきました。全国手話言語市区長会のメンバーとの会話でも、段階的な手話教育や学習の必要性が話題になることがあります。まずは自分事として、実践していきたいと思います。



骨董 古道具 古いモノ買います。 見積もり 買取り出張費 無料。

リサイクルショップでは買い取ってもらえない古いモノでお困りではありませんか？　壊れたり傷がついていても、古くて面白いものなら大歓迎！
処分する前に、ぜひ一度ご相談ください。

生前整理、遺品整理、空き家バンクに登録をお考えの方、古い家・蔵・納屋・倉庫などの整理、引越しやリフォーム、商店閉店の整理、贈答品等。





海猫 ☎0866-87-4333
携帯／090-2005-1690 藤井
井原市美星町宇戸谷 1211-1
@umineko28a
古物商許可証／岡山公安委員会 第 721120020867 号

〔広告〕広告の内容については広告主へお問い合わせください

高校生みらい共創課NEWS

問教育委員会事務局 ☎21-1509

高校生みらい共創課活動報告Ⅱ　～高梁を大好きになってもらいたい！～

高梁高校チームは、SNSを研究し、フォロワーの増加と幅広い世代への高梁の魅力発信を目標に活動を始めました。高校生自身が地域に出向き、魅力を感じた場所や人物などを取材し、自分たちで編集・発信しています。

活動に当たっては、市の秘書企画課と協働し、広報担当職員から動画の撮影や編集方法を学びながらスキルアップを図っています。また、伝えたいことがより多くの人に届くよう、チームで話し合いながら取り組んでいます。

駄菓子屋さんの紹介動画を皮切りに、動画や写真を投稿しています。これからも高校生がお勧めする高梁の魅力を継続的に発信していきますので、ぜひ高校生みらい共創課のInstagramやTikTokをご覧いただき、フォローをお願いします。



はじめての動画撮影

高梁城南高校チームは、幼児や小学生が市内で楽しく過ごせる遊び場づくり「たかはし みらい スイッチ」を今年度中に６回計画しています。電気科、デザイン科、環境科学科の生徒で構成されるチームの特色を生かし、子どもたちが楽しめる内容を話し合いながら企画しています。

教育委員会社会教育課の職員に相談し、公民館とも連携して活動を進めています。９月には高梁市文化交流館でペープサートづくりを行い、保護者も一緒に楽しい時間を過ごしました。

今後も、活動を通じて子どもたちに笑顔いっぱいの思い出を届け、高梁市に住み続けたいと思う人が少しでも増えるよう取り組んでいきます。

これら今年度前半の活動については、10月28日（水）に市役所で中間報告会を開催し、多くの職員の人や関係の皆さんに聴いていただくことができました。

@MIRAI.TAKAHASHI2910
インスタグラム
二次元コード



「たかはしみらい スイッチ」

シリーズ 神楽 ユネスコ登録に向けて

問社会教育課　☎21-1516

4 備中神楽の保存・継承

備中神楽は、昭和54年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。今回は、その指定前後の様子を紹介します。

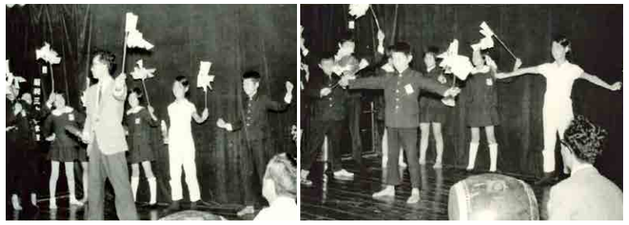
まだ戦後復興期にある昭和25年、備中神楽の保護団体である「備中神楽成羽保存会」の前身「備中神楽後援会」が旧川上郡内の神楽師を中心に組織され、その保存と継承に取り組むこととなりました。

その後、昭和31年に県重要無形民俗文化財に指定されたことを受けて、地域ではさらに国指定を目指して保存・継承に取り組む機運が盛り上がっていきました。翌年には、当時の文部省文化財保護委員会の技官による実地調査で文化財として高く評価され、またそれ以降昭和35年の全国民俗芸能大会（東京 日本青年館）や昭和52年の「全国日本神楽大会」（島根県浜田市）などのイベントへ備中神楽成羽保存会が出演することで、備中神楽の魅力を全国に発信していきました。

そうした長年にわたる熱心な活動が評価され、昭和54年、ついに備中神楽は国指定重要無形民俗文化財となったのです。指定を祝して、当時の成羽文化センターで盛大な記念行事が開催され、地元をはじめ、備中各地から約70人の神楽師が集まり、神楽を奉納し、喜びを分かち合いました。

一方、神楽の後継者の育成を図る活動の一環として、昭和43年には成羽小学校に「神楽クラブ」が誕生しました。部員は２年生から６年生までの男女20余名で構成され、神楽保存会の協力を得て、熱心に練習に励みました。いわゆる「子供神楽」の始まりです。

このように昭和25年代以降、備中神楽の保存・継承をめぐって、県や国の文化財指定を契機に大人から子どもまで世代を超えて様々な活動が展開され、備中地域を代表する伝統芸能として定着し、今日に至ります。



子供神楽練習風景（成羽小学校提供　昭和43年）